

2017年度（平成29年度）方針

2017(平成29)年4月

公益財団法人 全日本ボウリング協会 会長 北川 薫

ボウリング界は国内外とも大きな節目を迎えています。ボウリング場の減少傾向という危機や、オリンピック種目採用への課題など、乗り越えるべきものが多々あります。解決の道筋をつけるため、昨年度は協会の運営組織を一新しました。また「スポーツボウリング」を改革の柱に据え、新しい、未来につながるボウリング像の追求に取り組んできました。

ボウリングには「するスポーツ」としての魅力が大いにあります。これにより高い競技力を求め加えることで「見るスポーツ」、「支えるスポーツ」としての側面を伸ばすことができると考えております。

2017年度も協会運営は、「スポーツボウリングの普及強化」に主眼を置いてまいります。そして、ボウリングに出会った人々により深くボウリングを楽しんでもらうため、対象に合った適切なサポート体制を設けることで、JBCの会員増強にもつなげてゆく所存です。

新体制による協会改革2年目は、以下の基本方針により事業を進めます。

1. 競技力の向上をベースとしたスポーツボウリングの普及強化

- (1) 指導者制度改革による全国一貫指導体制の再構築
 - ・日体協公認ボウリング指導員・コーチ資格取得カリキュラムの刷新
 - ・JBC・USBC コーチ制度の本格運用
 - ・指導有資格者を対象とした研修事業の実施によるコーチングシステムの全国的普及（全日本ジュニア強化コーチ研修会等）
 - ・JBC アカデミックスタッフによる技術解析と強化策開発
- (2) ジュニアジャパン制度の充実によるジュニア育成の推進
 - ・地域における有望選手発掘事業（ジュニアジャパン選考会）
 - ・ジュニアジャパン合宿
- (3) 全日本ナショナルチーム、全日本ユースナショナルチームの国際的競技力の向上
 - ・JOC 選手強化事業を活用した強化合宿等の実施
 - ・2018 アジア競技大会をターゲットとしたチーム競技力醸成
- (4) 国際大会における成績の向上
 - ・ワールドゲームズ2017 ・第5回アジアインドア&マーシャルアーツゲームズ
 - ・第19回アジアユース選手権大会 ・第18回アジアスクール選手権大会
 - ・世界選手権大会2017 男女大会

2. 「ボウリング=すべての人が楽しめるスポーツ」のイメージ定着

- (1) 幼児・児童を対象としたボウリングとの出会いの創出
 - ・ボウリング体験会等の積極的な開催
 - ・全日本小学生競技大会・都道府県予選会兼指導会の内容充実
- (2) 中学生を対象とした競技環境の整備
 - ・全日本中学選手権大会の地域活性化事業満了に伴う新体制の構築

- (3) 高校総体(インターハイ)の正式種目としての採用
 - ・都道府県高体連への加盟を推進するための積極的な働きかけ
 - ・高等学校教員を対象とした部活動導入説明会等の開催
- (4) 大学におけるボウリングの多角的展開
 - ・公益社団法人全国大学体育連合とのタイアップによる大学授業採用推進活動
 - ・ジュニア選手の進学促進による全日本学生連合の加盟校・選手増強と競技力向上
 - ・実業団連合との交流による競技活発化と卒業後の競技環境獲得支援
- (5) 成人スポーツとしてのボウリング普及促進
 - ・個人正会員増強のための各都道府県連盟・支部クラブにおける積極的な活動を推奨
 - ・実業団参入企業の増加および会員増強
- (6) シニアボウリングアスリート像の創出
 - ・シニア層におけるボウリングイメージの刷新(余暇活動からアスリートスポーツへ)
 - ・2018 アジアシニア選手権の沖縄開催に向けたシニア競技力の向上
- (7) パラスポーツとしてのボウリング普及促進
 - ・視覚障害者ボウリング競技の認知向上支援
 - ・障害者対象のボウリング大会開催支援
- (8) 多様性の受け入れ
 - ・愛好者の開拓、受容によるボウリングファン層の拡大
 - ・あらゆる人を対象としたスポーツボウリングとの出会いの創出
(ボウリング教室キャラバン隊)
 - ・競技方法、および関連する事項の検討(ルール改訂を含む)

3. ボウリングのポジティブイメージ醸成による会員の増加と活性化

- (1) 全国の公認競技場と連携強化
 - ・公認競技場新制度を施行し競技場の経済負担軽減
 - ・公認競技場・JBC間のダイレクトな連携協力体制を構築
 - ・一般愛好者から競技者へのステップアップの促進
 - ・ボウリング場のイメージ向上(明るくスポーティな雰囲気センターに)
- (2) スポーツボウリングのイメージ向上につながる情報発信
 - ・既存番組等とのタイアップ推進
 - ・協会媒体(JBCニュース、Web、SNS)を活用した広報活動の強化
- (3) スター選手候補の発掘・育成・強化
 - ・小学生、中学生の有望選手を発掘・育成
 - ・高校生、大学生の実力選手、成人トップレベル選手の国内外における活躍を発信
- (4) ボウリングシンポジウムを開催し、内外での活発な意見交流

この方針の実施にあたり、内閣府、文部科学省、スポーツ庁をはじめとする各省庁、公益財団法人日本体育協会、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、独立行政法人日本スポーツ振興センター、一般財団法人地域活性化センター、ボウリング業界、特別協力各社との連携を密にし、役員はもとより会員の皆さんと共に方針の達成に邁進します。